

胃がん検診 ～朝霞地区における がん検診の現状と問題点～

朝霞地区医師会 あおやぎ てつじ 青柳 徹二
☎464-4666

朝霞地区では、毎年5月から翌年2月にかけてがん検診が行われています。胃がん検診は、全国で一般的に行われているX線検診を朝霞地区でも採用しており、実施医療機関は各自治体の広報紙などに掲載されていますので、検診をご希望の方は、そこで確認することができます。

有効性評価に基づく胃がん検診ガイドラインでは、X線検診が推奨されています。しかし、近年、その受診率は全国的に横ばいから減少傾向にあります。この理由としては、検診や読影（レントゲンやMRIなどの画像検査に対して、診断すること）を行う放射線技師や医師の減少、内視鏡検診（いわゆる胃カメラ）の普及が指摘されています。

朝霞地区4市（新座・朝霞・志木・和光市）における胃がん検診受診率は、平成23年度で新座市8.3%、朝霞市13.1%、志木市6.9%、和光市12.0%で、過去3年間で横ばいから減少傾向です。平成22年度のデータですが、全国の平均は9.6%、埼玉県の平均は

6.3%と、埼玉県は全国平均を下回っています。この理由は、埼玉県民の平均年齢が若く、健康に不安を持つていない方が多いためであると県は推測しています。その点からすると、朝霞地区4市の受診率は県に比べてやや高く、住民の胃がんに対する意識が、県の中では高いといえるかも知れません。

現在のところ、死亡率減少効果が証明されているのは胃X線検診のみですが、前述のとおり受診率が減少傾向にあるため、今後、他の方法による検診を考えていく必要があると思われまます。現在、検討されている方法の中から代表的なものを2つ紹介します。

1つは、内視鏡検診です。いわゆる胃カメラによる検診ですが、都市部を中心に医師会による内視鏡検診が進んでいます。朝霞地区でも、人間ドックにおいてはX線検診と内視鏡検診の選択制となっています。内視鏡検診のメリットは、「早期胃がんを発見できる可能性が高い」、「X

線検診のように、検診後に下剤を使用しなくてよい」などが挙げられます。デメリットは、「内視鏡挿入時の苦痛」が代表的なものです。

もう1つは、血液検査で胃炎、胃がんなどの原因となるピロリ菌感染の有無を確認することができ、そしてペプシノゲンという萎縮性胃炎の血清マーカーを調べ、両者の値から将来胃がんになりやすいかどうかA B C Dの4段階に分ける検診です。

この方法は、ハイリスクの受診者を内視鏡検診によりフォローアップする点と、採血のみで層別化できる点で、X線検診と異なっています。したがって、受診率向上が期待される反面、ピロリ菌を除菌治療した人々の判定に問題が生じるなど、解決すべき点もあります。

いずれの方法にせよ、地域住民を長く管理できる実地医家の意見を検診システムに反映させることが大事であると考えます。

日曜・休日に実施している医療機関

午前10時～午後4時

月日	場所	施設名	科目	☎(048)	場所	施設名	科目	☎(048)
7	和光	西谷医院	内・小	461-2226	新座	三須耳鼻咽喉科	耳・アレ・気	480-1187
14	朝霞	ひろせこどもクリニック	小・アレ・内	460-2900	志木	かとう整形外科・リハビリテーション科	整外・リハ	486-3770
21	志木	柳瀬川内科小児科医院	内・小	476-7955	朝霞	はまなか皮膚科クリニック	皮・アレ	476-1223
28	新座	新座むさし野クリニック	内・アレ・循内	489-5323	朝霞	根本整形外科	整外	467-4154
29	朝霞	富岡医院	内・循内・小	461-7581	新座	清水医院	内・外・循内・皮	476-2111



※当番医は変更になる場合があります。確認してからお出かけください。